

4.2 緑の将来像

(1) 緑の将来像のあり方

伊勢原市は、大山を背景とした景観特徴から、市全体が緑豊かな都市としての印象を有しています。

しかしながら、市街化区域に限っては、高度経済成長期とバブル期の宅地開発を経て、緑被率 7.2%と身近な緑が大きく減少しているのが実状です。それでも、市街地を包み込む樹林地や農地、水辺の空間に恵まれ、それらが市街地内に介在する緑とネットワークして一定の環境が保たれており、昆虫や小動物の生息も見られ、自然とふれあう子どもの姿が残されています。

また、渋田川の芝桜や主要道路での「花いっぱい運動」など、水や緑に係る新たな都市文化の形成も芽生えています。

このようなことから、大山・日向の山の緑と農地の緑に支えられる伊勢原市の緑の恵みを守り、身近な自然と共生し、花と緑で溢れた都市を目指して、伊勢原市の「緑」の将来像を次のように定めます。

『自然と共生する 水と花と緑のいせはら』

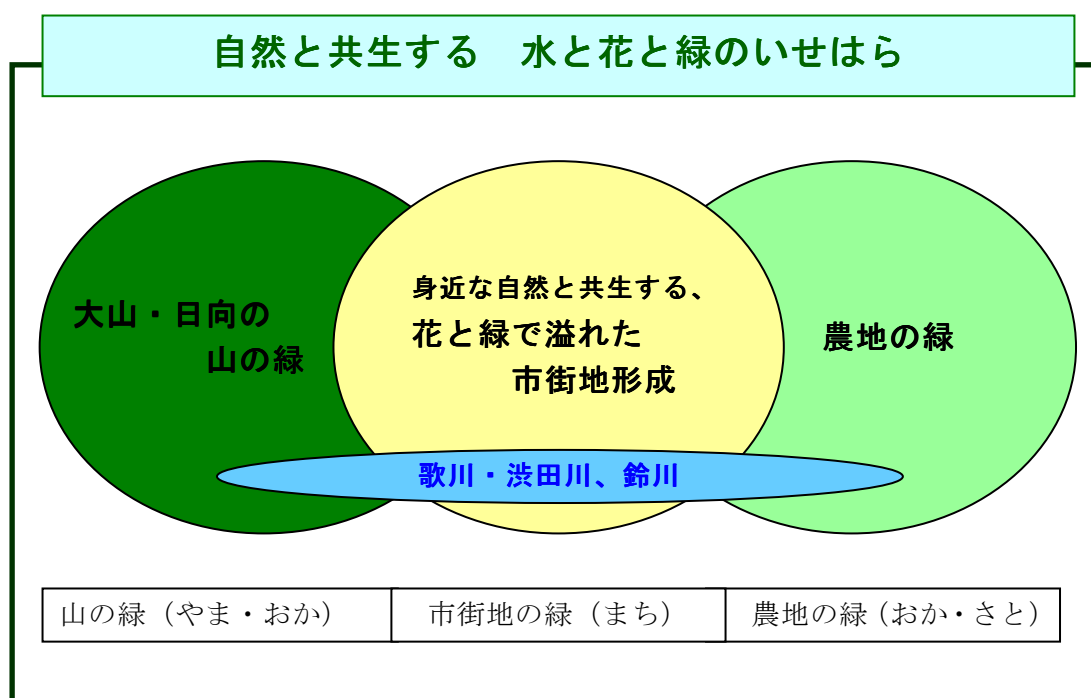


図 4.2.1 緑の将来像の概念図

(2) 緑の将来像の目標値

緑の将来像の目標値は、緑の将来像実現のための緑の量に係る基本方針として設定します。将来目標値の基本的な考え方と各目標年次における目標値を次に示します。

- 市街化調整区域における樹林地の現状水準の保全を目指します。
- 公共施設の緑化を推進します。特に都市公園の整備を推進し、市民一人当たり都市公園（県立公園含む）整備面積の倍増を目指します。
- 緑被率について、市街化区域内の緑被率の倍増を目指します。
- 潤いのある緑豊かな都市環境の形成に向け、市民一人1本植栽を目指し、公共公益施設を中心とした苗木植栽を促進するとともに、花いっぱい運動を全市的に展開し、苗木や花苗の配布及び花づくりや庭木づくりの普及啓発等、民有地等の緑化推進を図ります。

表 4.2.1 緑の将来目標

項目	現況	目標（平成34年度）		
		定量目標	定性目標	
市街化調整区域の樹林地量	約2,000ha	約2,000ha	市街化調整区域における樹林地の現状水準の保全	
都市公園（県立公園含）	都市計画区域	34.0ha(3.4m ² /人)	85.0ha(8.0m ² /人)以上	市域全体（都市計画区域）倍増
整備面積目標量	市街化区域	16.0ha(1.9m ² /人)	30.0ha(3.5m ² /人)以上	
市街化区域内の緑被率	7.2%	15%	市街化区域内緑被率の倍増	
緑化推進目標量	—	50ha	市民一人1本植栽	

なお、将来目標値を達成するために、目標値を中期（10年以内）・長期（15年以内）の2つの目標年次に分けて段階的に設定します。そして、各目標年次のシナリオと目標値を次表・次図に示します。

表 4.2.2 各目標年次のシナリオ

目標年次	シナリオ
中期目標（10年） （平成20～29年度）	市街化区域を中心に、道路や公園など公共施設の緑地整備を推進するとともに、民有地等の緑化誘導に向けた基準整備や土地利用、景観に関する基準整備を図り、緑被率の向上を目指します。
長期目標（15年） （平成30～34年度）	伊勢原市のシンボルである大山を中心とした緑豊かな森林景観の保全を目指すとともに、防災公園の充実や大規模公園の整備、また大型開発事業に伴う適切な緑地配置等、秩序ある健全な都市環境の保全・推進を目指します。

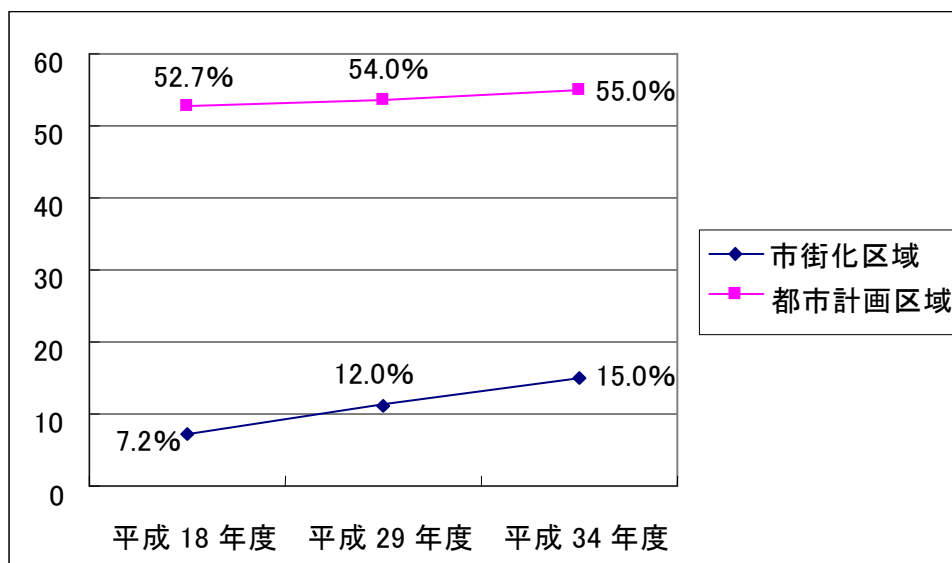


図 4.2.3 緑被率の目標

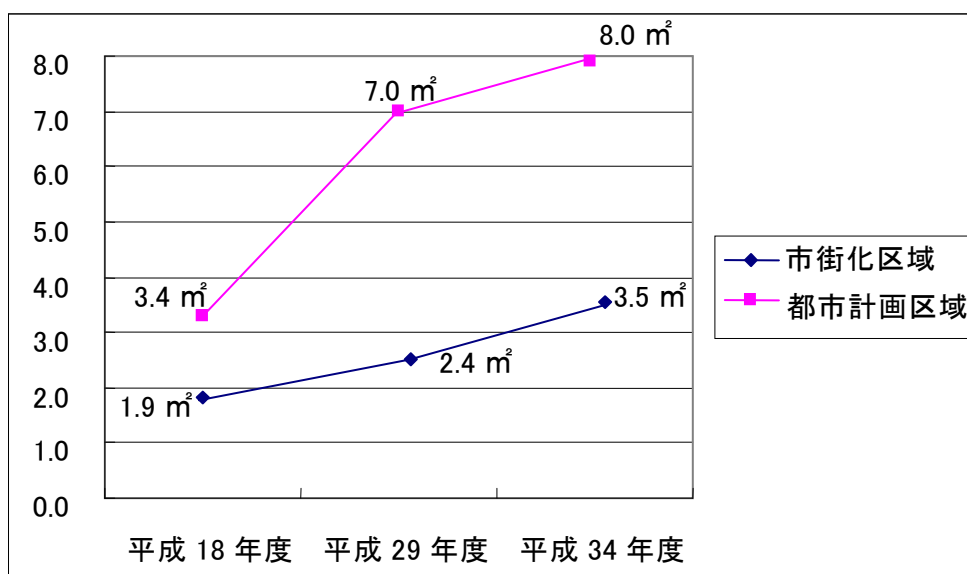


図 4.2.4 一人当たりの都市公園（県立公園含）整備面積の目標

	平成18年度	平成29年度	平成34年度
人口 (万人)	10.0	10.6	10.5
市街化区域面積 (ha)	1,137	1,137	1,137

表4.2.5 計画フレーム

(3) 緑の将来像の骨格形成

① 骨格となる緑の設定

伊勢原市の緑のあり方等を踏まえ「やま」「おか」「まち」「さと」の各ゾーンにおける緑の保全・創出を効率的に図るうえで、骨格となる緑を設定します。

緑の骨格は、「主軸」「拠点」「副軸」により構成します。

表 4.2.6 伊勢原市の緑の骨格

分類	設定の考え方	設定する緑
主軸 緑の骨格形成を図るうえで根幹となる緑	緑の骨格を形成するうえで根幹となる緑として、連担性の高い帯状の緑や広域的な流域を持つ河川を「主軸」として設定します。	○歌川・渋田川 ○鈴川
拠点 緑の骨格形成の核、緑のネットワークの拠点となる緑	緑のボリューム確保や緑のネットワークを展開するうえでの核となる緑として、中心市街地などの緑被率の低い区域や緑のネットワーク上の結節点となる緑の区域を「拠点」として設定します。	○伊勢原駅周辺地区※1 ○伊勢原市総合運動公園、市民の森ふじやま公園、丸山城址公園等 ○県立いせはら塔の山緑地公園・市ノ坪公園・鈴川公園
副軸 緑のネットワークを形成する緑	主軸や拠点を有機的に結び、緑のネットワークを形成する線状の緑を「副軸」として設定します。 「副軸」は道路の緑化（緑のプロムナード等）や線的に点在する樹林地などにより構成します。	○広域幹線道路（東名高速道路・第二東名自動車道・小田原厚木道路・国道246号・国道246号バイパス（厚木秦野道路）） ※2 ○主要地方道並びに都市計画道路 ○伊勢原駅周辺市街地を包み込む樹林地

※1：現状において緑被率の低い市街化区域（7.2%）の緑のボリュームを確保するために、都市の顔となる「伊勢原駅周辺市街地」を拠点として設定します。

※2：第二東名自動車道・国道246号バイパス（厚木秦野道路）は、新たな緑地軸として設定します。

② 緑の骨格から面的な展開

骨格となる緑を中心に、緑のつながりを意識した緑の保全・創出を推進することにより、緑の視点からの都市づくりを各ゾーンにおいて展開し、緑の将来像を実現します。

緑の骨格から面的な展開	骨格となる緑を中心に、身近な公園等の整備・拡充、緑地の保全・活用、公共施設及び民有地の緑化や河川、道路の緑化などを進め、各ゾーンにおける緑の面的な展開を図ります。
-------------	---

③ 緑の骨格図

